

各議員の氏名の左にあるQRコードをスマートフォン等の専用アプリで読み取ると、一般質問の録画映像をご覧いただけます。



自治会集会所について



越谷市民ネットワーク 清水 泉 議員

問 老朽化した自治会集会所の建て直しを計画している自治会があるが、建築費高騰のため予算超過し、計画を断念している。越谷市集会施設整備事業補助金交付要綱の見直しについての考えは。

市長 集会施設整備事業補助金は用地取得、新築、増改築および修繕、空調設備の更新、公共下水道接続に係る整備費の一部を補助する。現在要綱改正の予定はないが自治会の要望や社会情勢を鑑み検証する。



家庭環境調査票等のデジタル化について



越谷市民ネットワーク 山田 裕子 議員

問 新学期に学校へ提出を求められる書類の記入は忙しい子育て世帯にとって負担が大きい。各種手続きを従来の手書きではなく、デジタル化への考えは。

教育長 学校の各種手続きのデジタル化は重要であり、実現すれば保護者にとってさらに利便性が高まると認識しているが、災害時に停電等によりデジタルデータの運用ができない可能性や、機器操作に苦手意識を持つ保護者も考慮し、調査研究していく。



市立病院の在り方および経営健全化について



越谷刷新クラブ 松島 孝夫 議員

問 赤字経営が続いている市立病院の在り方と経営健全化に向けた取り組み状況は。

市長 6月3日に市立病院緊急事態宣言を発令し、運営方針を明確化したうえで、体質改善に努めるよう呼びかけた。今後も、あらゆる可能性を否定せずに取り組む。

問 市立病院の建て替えについて喫緊の課題と認識しながらも、問題解決に向けた取り組みが見えない。具体的な取り組みは。

市長 この1年で、できるかぎり進めたい。



公立保育所におけるDX推進について



立憲民主党越谷市議団 土屋 来夢 議員

問 こども家庭庁はDX推進チームを立ち上げ、子育て支援の質向上を目指している。昨年、保育所にiPadが2台配置されたが、その後の「コドモン」活用強化やiPad整備の進捗状況は。

市長 令和6年度中に増林、荻島、新方保育所で「コドモン」を使える環境を整備し、連絡帳や保育日誌機能を導入予定。各保育室に1台の端末を設置し、事務時間を削減し保護者の利便性向上につなげる。



障がい者等に寄り添った郵便はがきの案内について



立憲民主党越谷市議団 小口 高寛 議員

問 「二十歳のつどい」のご案内について、障がい者等に寄り添った郵便はがきの案内の仕方についての考えは。

教育長 参加が叶わなかった新成人への記念品受け取り通知に市長のビデオメッセージが視聴できる二次元コードの掲載や、二十歳の節目のお祝いにふさわしい心の籠ったご案内となるよう、市長直筆のメッセージやガーヤちゃんのイラストの案内はがきへの掲載実施に向けて検討を進めていく。



ラスパイレス指数に対する考え方について



越谷刷新クラブ 浅古 高志 議員

問 基本給を抑えながらも職員の正しい評価を行うため、手当等により適正な給与バランスを確保し、公務員としての使命を全うする努力を促す必要があると考えるが。

市長 本市のラスパイレス指数が、令和5年度については全国最高値となっている。今回ラスパイレス指数が全国最高値になったことを受けて、直ちに給与の減額を行うという考えは持ち合わせていない。



公共交通に関する意見交換会等を踏まえた今後の方向性について



公明党越谷市議団 和泉田 宏幸 議員

問 持続可能な公共交通に関する意見交換会、アンケート調査の結果や予約型乗合タクシー実証運行を踏まえて、デマンドタクシー配置の可能性等、今後の本市における公共交通の方向性について市長の考えは。

市長 高齢化や運転士不足などの社会情勢の変化も見据えながら、現在、本市に適した持続可能な公共交通について、財政支援も含め、できる限り早期に、今後の方向性を示せるよう検討を進めていく。



ごみ収集かごについて



日本共産党越谷市議団 山田 大助 議員

問 ごみ収集かごの移動の負担を軽減すべきと考える。また、負担をなくすためごみ収集業者によるかごの設置・回収を行うべきと考えるが、さらに財源について国の支援・補助を要望する考えは。

市長 重いかごにはキャスターを設置している。軽いかごは容量が小さいなど課題があった。業者による設置・回収はゴミの量などの課題がある。負担軽減は調査・研究したい。財源の国への要望はしていく。



Bプレミアム基準のアリーナ整備に対する支援について



越谷刷新クラブ 野口 高明 議員

問 越谷アルファーズの要望書に示されているレイクタウン地域にアリーナ整備をする支援について、本市独自で支援また早期対応が不可能ならば、埼玉県と調整しながら早期対応が必要と考えるが市長の考えは。

市長 民設民営と言いつつも協力できる場所は最大限していきたい。県の支援をもらえるところは当然もらおうと思うが、我々としてどこまでできるかを越谷アルファーズとしっかり話していきたい。



農家を継承できるための支援策について



日本共産党越谷市議団 大和田 哲 議員

問 市内農家と農地の現状、農地転用で食料自給率、米に例えればどのくらいの損失になるか。農家への支援策は。

市長 この5年間で約7000アールの農地が減少し、米の収穫量にすれば約339トンとなる。農家戸数は半減している。農家支援では新たな施策として、有機農法などの「特別栽培農産物」を生産する農家に補助金を交付予定である。持続的に農業が行える環境づくりに努める。



営農を続けられる農業政策を



遠方から小学校に通う児童への熱中症対策について



自由民主党越谷市議団 横井 聖美 議員

問 学校の設置責任者としてスクールバスを導入する考えは。

市長 判断するにあたり、教育委員会が実施した調査結果では、山間部や過疎地での導入事例がほとんどであった。今後、児童数の現状を注視するとともに、公共施設等総合管理計画を踏まえ、学校の再編成等も含めて総合的に判断していく課題である。私自身はスクールバスを導入するうんぬんを決める立場ではない。